2．幼小連携の取り組み・意識についての項目

幼 3-(1)：幼児期の教育(就学前教育)と小学校との連携に興味はありますか。
小 3-(1)：幼児期の教育(就学前教育)と小学校との連携に興味はありますか。

幼小の教職員は，連携することに対して興味をもっている

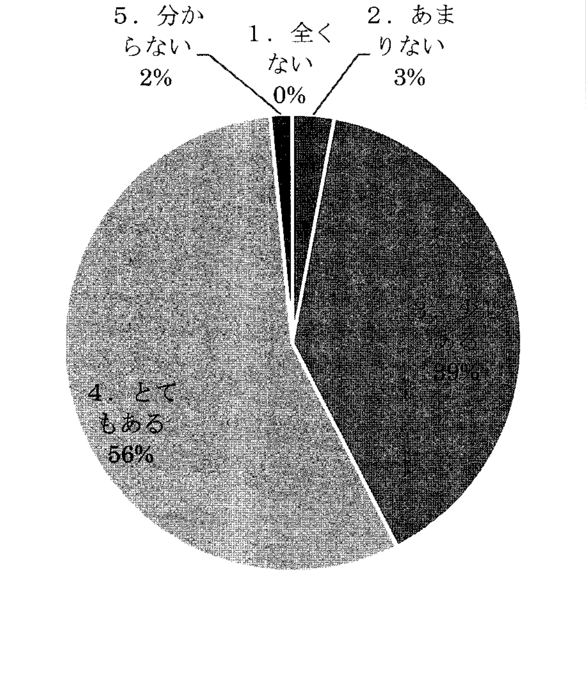

図 2-9 (幼)幼児期の教育(就学前教育)と小学校との連携に興味はありますか

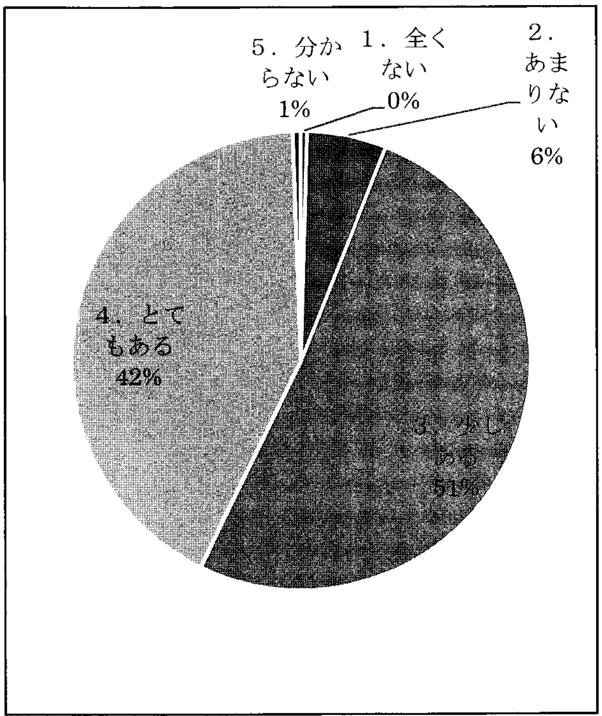

図 2-10 (小)幼児期の教育(就学前教育)と小学校との連携に興味はありますか

幼保等教職員に向けた，**幼児期の教育(就学前教育)と小学校との連携に興味はありますか**(図 2-9)では，「4．とてもある」が５６％，「3．少しある」が３９％という結果であり，９割以上の教職員が小学校との連携に興味があることが分かる。

小学校教職員に向けた，**幼児期の教育(就学前教育)と小学校との連携に興味はありますか**(図 2-10) では，「4．とてもある」が４２％，「3．少しある」が５１％であり，９割以上の教職員が幼児期の教育との連携に興味があることが分かる。

両校種とも，連携を行うことについては互いに興味をもっていることが明らかとなった。

幼 3-(2)：幼小連携は必要だと思いますか。
小 3-(2)：幼小連携は必要だと思いますか。

幼小の教職員ともに，幼小連携の取り組みが必要であると思っている

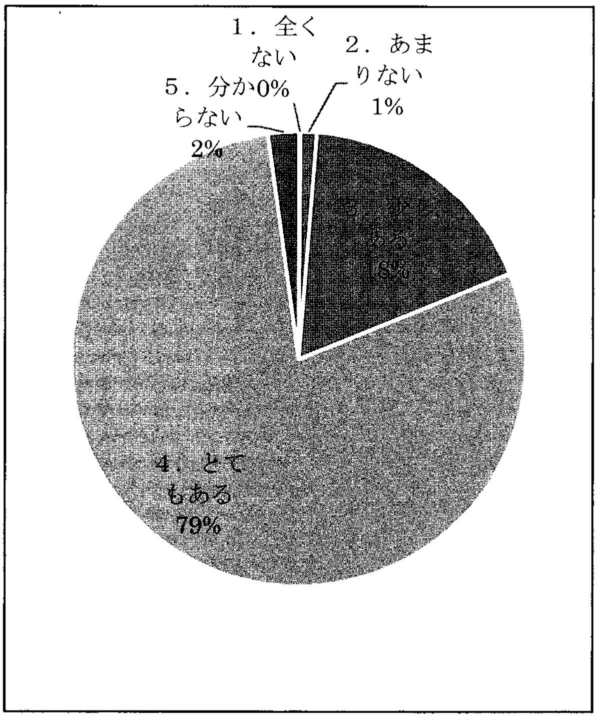

図 2-11　(幼) 幼小連携は必要だと思いますか

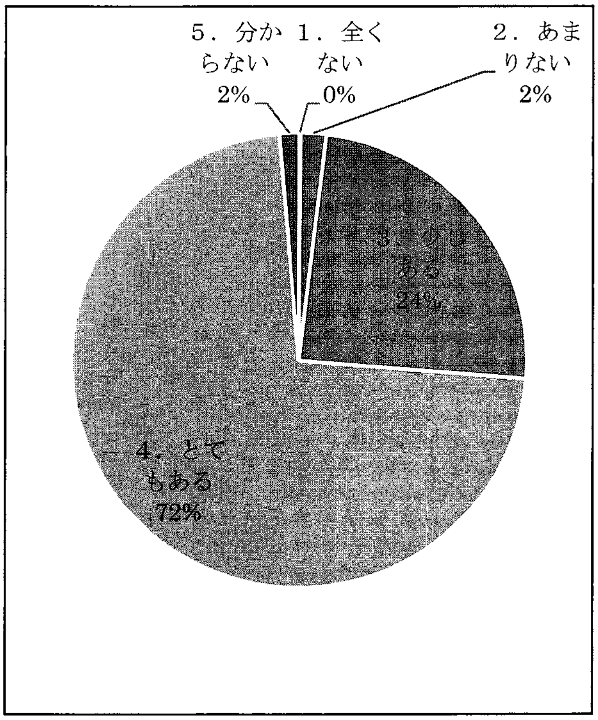

図 2-12　(小) 幼小連携は必要だと思いますか

幼保等職員に向けた，**幼小連携が必要だと思いますか**(図 2-11)では，「４．とてもある」が７９％，「３．少しある」が１８％という結果になった。ほとんどの幼保等教職員が幼小連携の取り組みが必要であると思っているということが分かった。

小学校教職員に向けた，**幼小連携は必要だと思いますか**（図 2-12）では，「４．とてもある」が７２％，「３．少しある」が２４％であり，ほとんどの教職員が幼小連携の取り組みが必要であると思っているということが分かった。

両校種ともに，幼小連携の取り組みに対して，必要感をもっていることが明らかとなった。

幼 3-(3-1)：幼小連携のために，ご自身の園では取り組みを行っていますか。
小 3-(3-1)：幼小連携のために，ご自身の学校では取り組みを行っていますか。

幼小ともに連携の取り組みは行われているが，十分ではない

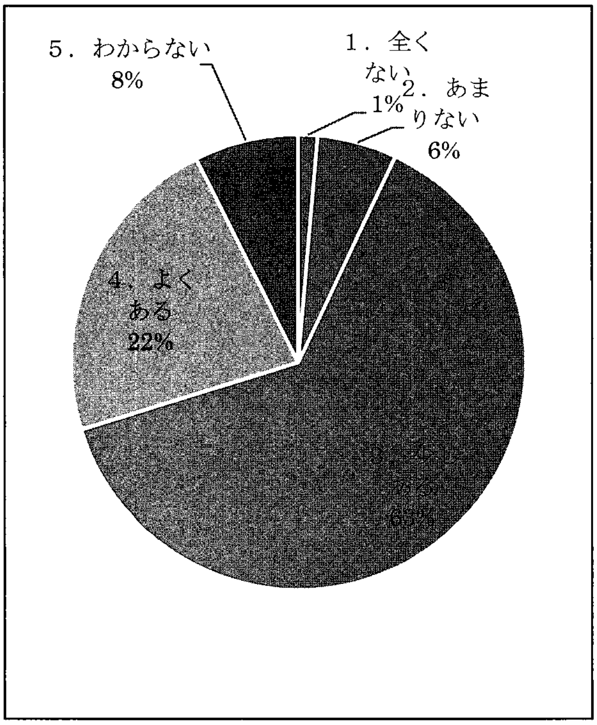

図 2-13 （幼）幼小連携のために，ご自身の園では取り組みを行っていますか

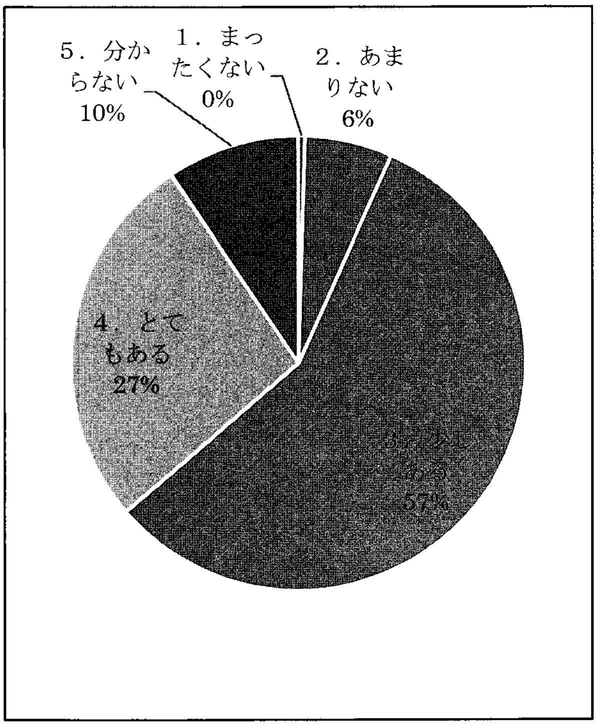

図 2-14 （小）幼小連携のために，ご自身の学校では取り組みを行っていますか

幼保等教職員に向けた，**幼小連携のために，取り組みを行っていますか**(図 2-13)では，「4．よくある」が２２％，「3．少しある」が６３％であり，およそ８割で幼小連携の取り組みが行われていることが分かった。しかし，「3．少しある」が６３％と多く，十分に取り組みは行えてはいないことが分かる。

小学校職員に向けた，**幼小連携のために，取り組みを行っていますか**（図 2-14）では，「4．よくある」が２７％，「3．少しある」５７％であり，幼保と同じように８割の学校で取り組みを行っているが，十分に行っているといえないことが分かる。また，両校種とも取り組みを行っているかが分からないとの回答が１割ほどを占めている。これは高学年等を担当したり，年長児以外を担当したりしている教職員，もしくは非常勤教職員などが実態を把握できていないためと考えられる。

幼小とも連携の取り組みは行っているが，十分には行われていないことが明らかとなった。

幼 3-(3-2)：3-(3-1)で「３．少しある」「４．よくある」と答えた方にお聞きします。
　　　　　ご自身の園では，具体的にどのような取り組みをしていますか。【複数回答可】
小 3-(3-2)：3-(3-1)で「３．少しある」「４．よくある」と答えた方にお聞きします。
　　　　　ご自身の学校では，具体的にどのような取り組みをしていますか。【複数回答可】

幼小ともに年長児を迎える会，就学前の情報交換を主に行っている

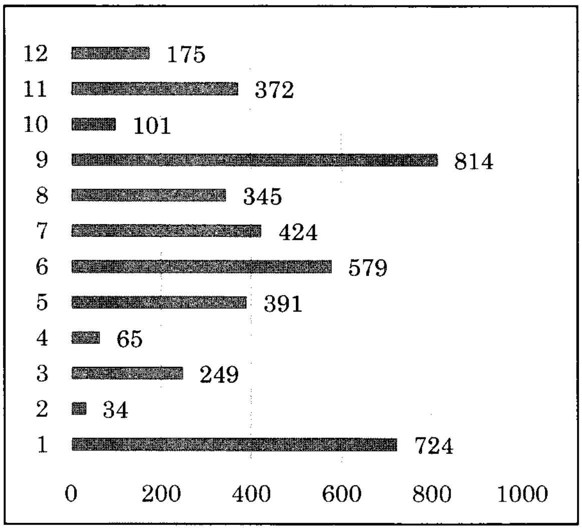

図 2-15 (幼)ご自身の園では，具体的にどのような取り組みをしていますか

1．年長児を迎える会への参加
2．昼食交流等
3．小学校の生活科での交流
4．小学校の他教科での交流
5．一緒に遊ぶ
6．幼児の小学校授業見学，体験
7．職員の小学校授業見学，体験
8．職員同士の交流
9．入学前，就学前の幼児の情報交換
10．小学校入学を想定したカリキュラムの編成
11，幼児の小学校行事への参観，参加
12，その他

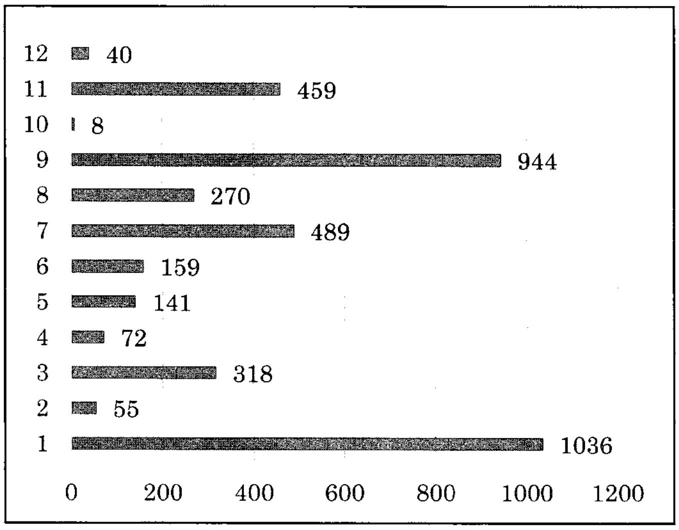

図 2-16 (小)ご自身の学校では，具体的にどのような取り組みをしていますか

1．年長児を迎える会
2．昼食交流等
3．生活科での交流
4．他教科での交流
5．一緒に遊ぶ
6．児童の幼稚園・保育所見学，体験
7．職員の幼稚園・保育所見学，体験
8．職員同士の交流
9．入学前，就学前の幼児の情報交換
10．幼児期の教育との接続を想定したカリキュラムの編成
11，幼児の小学校行事への参観，参加
12，その他

幼保等教職員に向けた，**ご自身の園では，具体的にどのような取り組みをしていますか**（図2-15）では，「１．１年生を迎える会の参加」が 724 回答，「９．入学前，就学前の幼児の情報交換」が 814 回答であり，多くの園でこのような活動が行われていることが分かる。

小学校教職員に向けた，**ご自身の学校では，具体的にどのような取り組みをしていますか**（図2-16）では，幼保等教職員と同様に「１．年長児を迎える会」が 1036 回答，「２．入学前，就学前の幼児の情報交換」が 944 回答と多く，ほとんどの小学校でこのような取り組みが行われていることが分かる。

幼小ともに，「年長児を迎える会」「入学前，就学前の幼児の情報交換」を主に行っていることが明らかとなった。

また，幼小を比較すると，「１０．カリキュラムの編成」が幼保等教職員が 101 回答，小学校教職員が８回答と差が見られた。これは，小学校がカリキュラムを十分に編成していないこと，また編成できない理由として，入学してくる園での取り組みが多様であり，各園から入学する子の育ちに合わせたカリキュラムの編成が難しいためであること，また幼小のカリキュラムの作成や編成の仕方が異なることが考えられる。

幼 3-(4-1)：幼小連携時に行う取り組みが新１年生の入学時に意味のあるものだと感じますか。
小 3-(4-1)：幼小連携時に行う取り組みが新１年生の入学時に意味のあるものだと感じますか。

幼小ともに連携の取り組みは新１年生にとって意味のあるものだと感じている

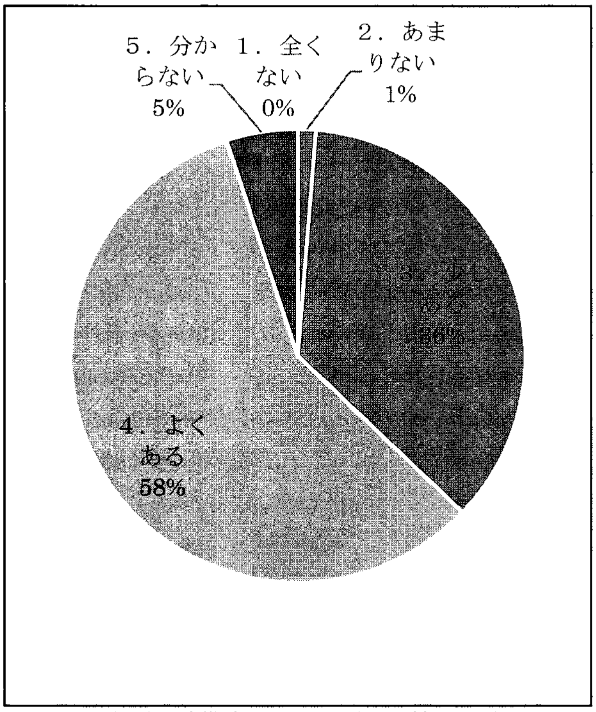

図 2-17 （幼）幼小連携時に行う取り組みが新１年生の入学時に意味があるものだと感じますか

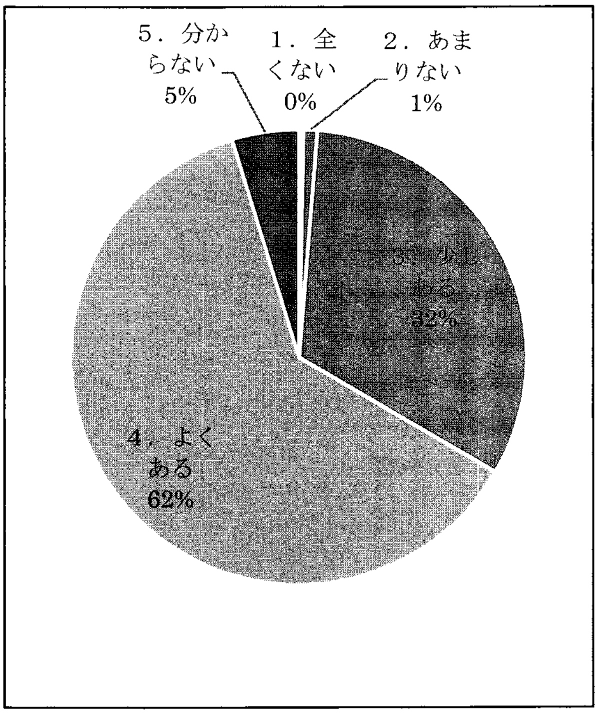

図 2-18 （小）幼小連携時に行う取り組みが新１年生の入学時に意味があるものだと感じますか

幼保等教職員に向けた，**幼少連携時に行う取り組みが新１年生の入学時に意味のあるものだと感じますか**(図 2-17)では，「４．よくある」が５８％，「３．少しある」が３６％であり，ほとんどの幼保等教職員が意味のあるものであると感じていることが分かる。

小学校教職員に向けた，**幼少連携時に行う取り組みが新１年生の入学時に意味のあるものだと感じますか**（図 2-18）では，「４．よくある」が６２％，「３．少しある」３２％であり，幼保と同様に取り組みが新１年生にとって意味のあるものだとして取り組んでいる。

両校種とも連携の取り組みは，新１年生にとって意味のあるものとして行っていることが明らかとなった。

幼 3-(4-2)：上記の理由をお書きください。
(幼小連携時に行う取り組みが，新１年生の入学時に意味のあるものだと感じますか)
小 3-(4-2)：上記の理由をお書きください。
(幼小連携時に行う取り組みが，新１年生の入学時に意味のあるものだと感じますか)

「４．よくある」「３．少しある」と回答分

幼・小ともに小学校生活にスムーズに入れるために意味があると感じている

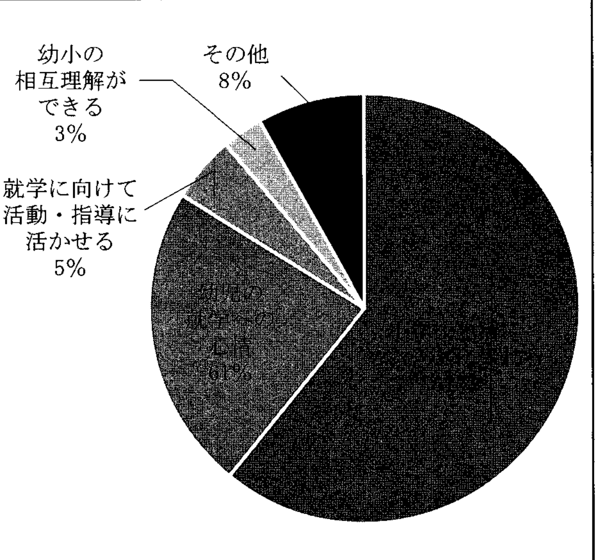

図 2-19 (幼)連携の取り組みが意味のあるものであると感じる理由 【自由回答】

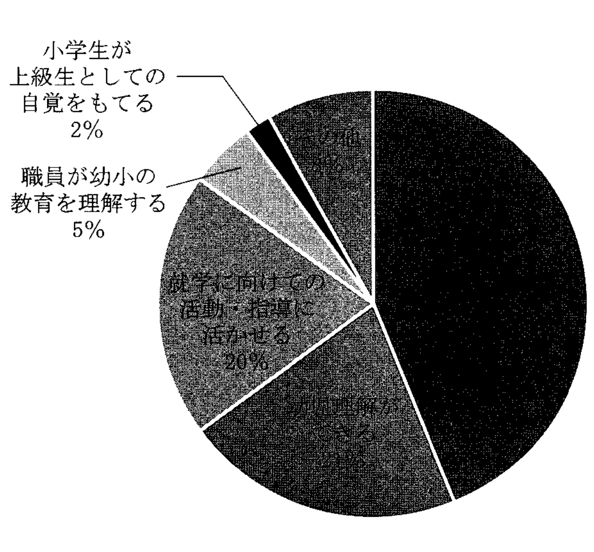

図 2-20 (小)連携の取り組みが意味のあるものであると感じる理由 【自由回答】

※具体的記述内容については，P54 資料１参照　※具体的記述内容については，P55 資料２参照

幼保等教職員に向けた，**連携の取り組みに意味があるものであると感じる理由**（図 2-19）では，「小学校生活にスムーズに入れる」が６１％と最も高く，次いで「小学校教員が幼児理解できる」が２３％であった。

小学校教職員に向けた，**連携の取り組みが意味のあるものであると感じる理由**（図 2-20）では，「小学校生活にスムーズに入れる」が４４％と最も高く，次いで「幼児理解ができる」が２１％，「就学に向けての活動・指導に活かせる」が２０％であった。

幼保等教職員・小学校教職員ともに，小学校にスムーズに入ることができるために，連携の取り組みに意味があると感じている。

幼小の結果を比較すると，幼保教職員は，幼児が就学に向けて新しい環境に対応していくために必要であると捉える傾向が強く，小学校教職員は，教師が幼児をどう理解し対応していくかを考える機会として連携の取り組みを捉える傾向があることが分かった。

また，意味がないと回答した理由については「連携の視点が定まっていない」「就学時に役立つものとは別」などの回答があった。

以下に，幼保等教職員の回答した「小学校生活にスムーズに入れる」「小学校教員が幼児理解できる」の内訳，小学校教職員の回答した「小学校生活にスムーズに入れる」「幼児理解ができる」の内訳を示す。

幼保等教職員回答「小学校にスムーズに入れる」「小学校教員が幼児理解できる」内訳

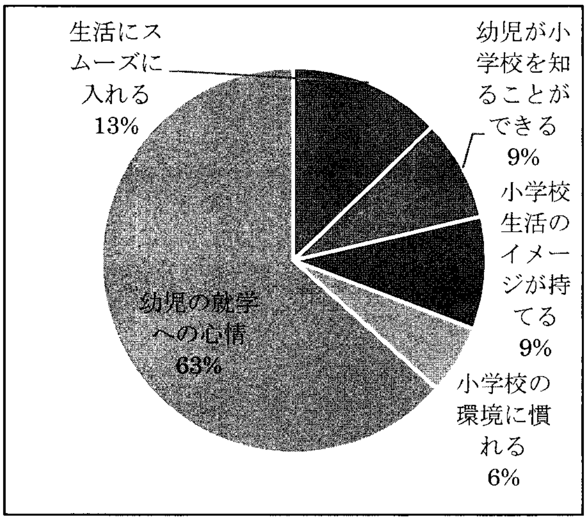

図 2-21 (幼)小学校生活にスムーズに入れるの内訳

「小学校生活にスムーズに入れる」と回答したものの内訳（図 2-21）は，「幼児の就学への心情面」が６３％と最も多く，就学に期待感や安心感をもつ機会となるとの回答が多かった。連携における取り組みでは，幼児の就学への心情的な部分の安心感，期待感を幼児が感じられることに意味があるということが分かる。

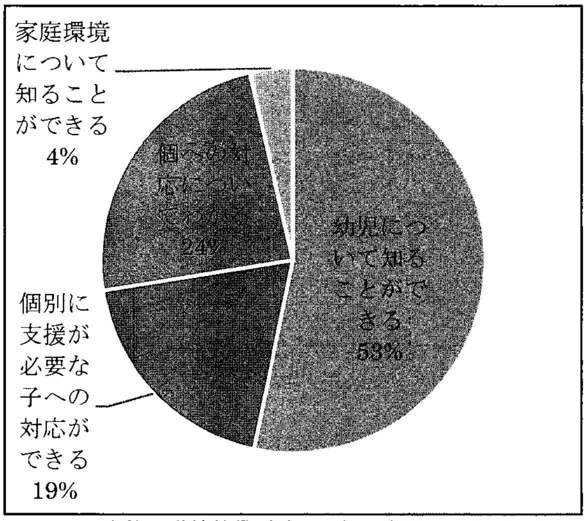

図 2-22 (幼)小学校教員が幼児理解できるの内訳

「小学校教員が幼児理解できる」の内訳（図 2-22）については，全体の５３％が「幼児について知ることができる」としている。これは，小学校教職員に普段なかなかかかわることができない幼児の特性や生活習慣等の情報を知ってもらう必要があると思っていることが分かる。また「個への対応について分かる」が２４％，「特別は支援が必要な子への対応ができる」が１９％と，個別に援助，対応が必要な子について事前に考えることができることも意味のあることと捉えている。

小学校教職員回答「小学校生活にスムーズに入れる」「幼児理解ができる」内訳

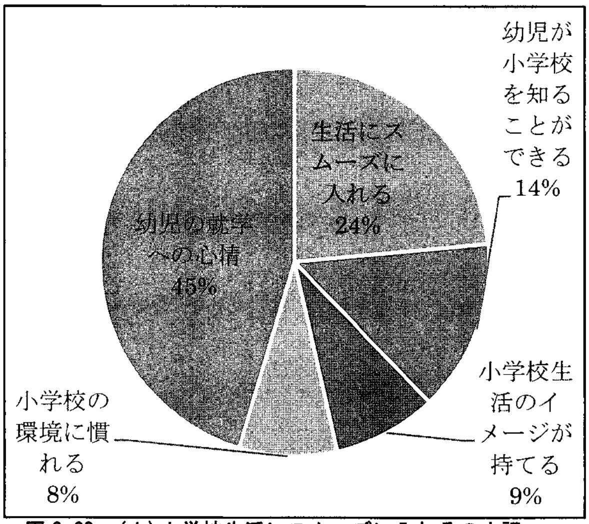

図 2-23 (小)小学校生活にスムーズに入れるの内訳

「小学校生活にスムーズに入れる」の内訳（図 2-23）については，「幼児の就学への心情」が４５パーセントと最も多く，就学への不安の軽減，安心感，就学への期待感など，心情面で安定し入学ができることが，連携としての意味が大きいと回答している。また，幼児が小学校を知ったり，イメージしたりと小学校そのものについてかかわることができることが連携の意味として大きいと回答している。

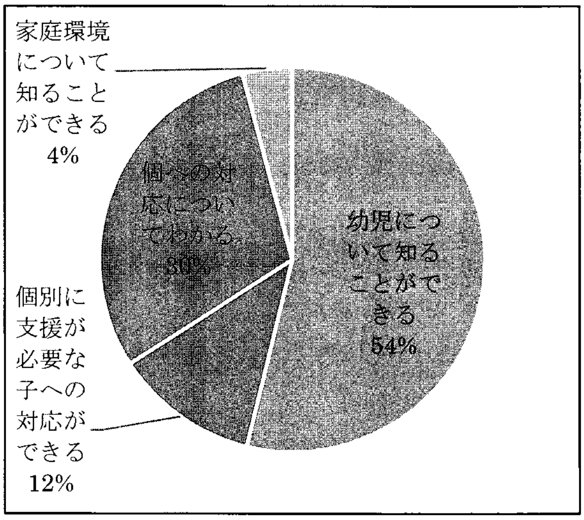

図 2-24 (小)小学校教員が幼児理解できるの内訳

「幼児理解ができる」の内訳（図 2-24）は，「幼児について知ることができる」が５４％と多く，幼児の様子や特性を知るために意味があるととらえている。また，「個への対応について分かる」が３０％，「特別な支援が必要な子への対応ができる」が１２％と就学へ向けて個への対応の仕方を考える機会と捉えていることが分かる。

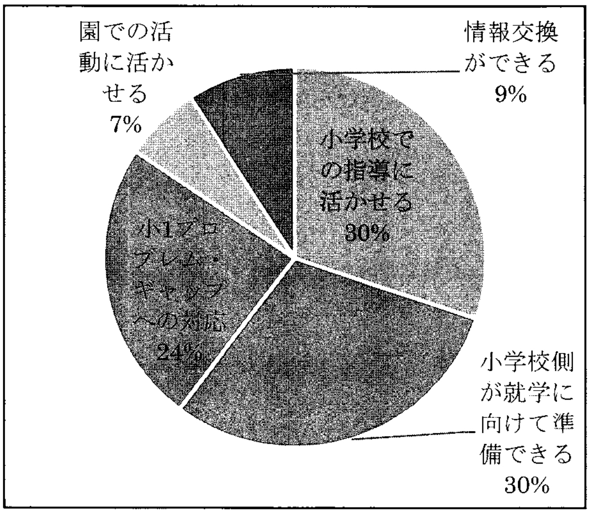

図 2-25 (小)就学に向けての活動・指導に活かせるの内訳

「就学に向けての活動・指導に活かせる」の内訳（図 2-25）については，「小学校の指導に活かせる」「小学校が就学に向けての準備ができる」がともに３０％と多く，実際に幼児とかかわることや園での様子を見たり，情報交換したりすることで，具体的な指導の仕方が分かったり，幼児の姿や情報からクラス編成を行ったりとすることができる点で連携の意味を捉えているようである。また「小１プロブレム・ギャップへの対応」が２４％であり，小学校教職員が小１プロブレム等の軽減，解消のために連携が必要であると捉えている。

幼 3-(5)：以下に挙げたもののうち，幼小連携の取り組みとして意味のあるものに○をつけてください。【複数回答可】

小 3-(5)：以下に挙げたもののうち，幼小連携の取り組みとして意味のあるものに○をつけてください。【複数回答可】

幼小ともに年長児を迎える会，就学前の情報交換を意味のある活動だと感じている

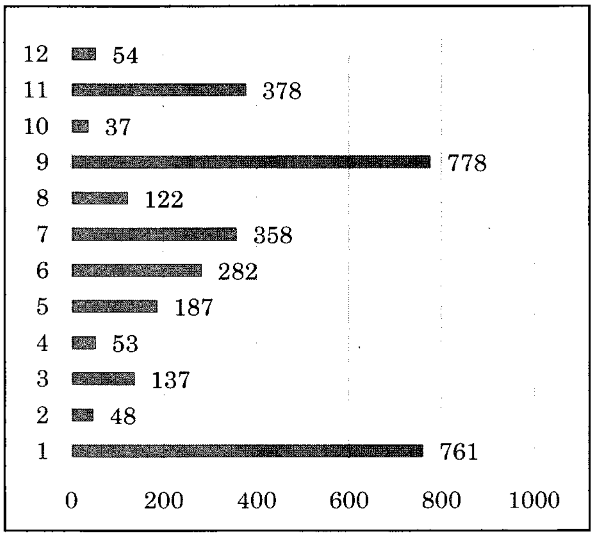

図 2-26 (幼) 以下に挙げたもののうち，幼小連携の取り組みとして意味のあると思うものに○をつけて下さい

1．年長児を迎える会への参加
2．昼食交流等
3．小学校の生活科での交流
4．小学校の他教科での交流
5．一緒に遊ぶ
6．幼児の小学校授業見学，体験
7．職員の小学校授業見学，体験
8．職員同士の交流
9．入学前，就学前の幼児の情報交換
10. 小学校入学を想定したカリキュラムの編成
11, 幼児の小学校行事への参観，参加
12, その他

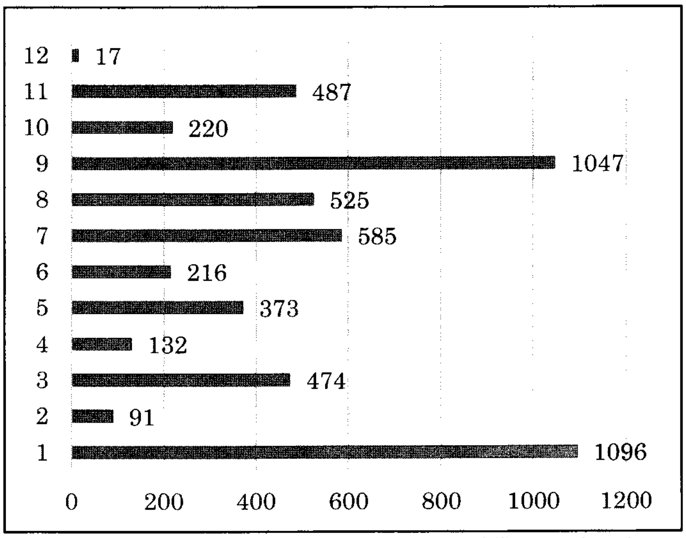

図 2-27 (小) 以下に挙げたもののうち，幼小連携の取り組みとして意味のあると思うものに○をつけて下さい

1．年長児を迎える会
2．昼食交流等
3．生活科での交流
4．他教科での交流
5．一緒に遊ぶ
6．児童の幼稚園・保育所見学，体験
7．職員の幼稚園・保育所見学，体験
8．職員同士の交流
9．入学前，就学前の幼児の情報交換
10. 幼児期の教育との接続を想定したカリキュラムの編成
11, 幼児の小学校行事への参観，参加
12, その他

幼保等教職員に向けた，**以下に挙げたもののうち，幼小連携の取り組みとして意味のあるものに○をつけてください**（図 2-26)では，「1．年長児を迎える会への参加」が 761 回答，「9．入学前，就学前の幼児の情報交換」が 778 回答であり，設問 3-(3-2)で主に取り組んでいると回答したものと，意味のある活動であると捉えているものが一致していることが分かる。

小学校教職員に向けた，**以下に挙げたもののうち，幼小連携の取り組みとして意味のあるものに○をつけてください**(図 2-27)では，「1．年長児を迎える会」が 1096 回答，「9．入学前，就学前の幼児の情報交換」が 1047 回答であり，幼保等教職員と同様に設問 3-(3-2)の回答で主に取り組んでいると回答したものと，意味のある活動と捉えているものが一致していることが分かる。

幼（3-6）：卒園（修了）時の幼児に対するイメージをお書きください。
小（3-6）：新１年生に対するイメージをお書きください。

卒園児・新１年生のイメージは，幼から見るとプラスイメージが多いが，
小学校から見ると幼保に比べマイナスイメージが多い

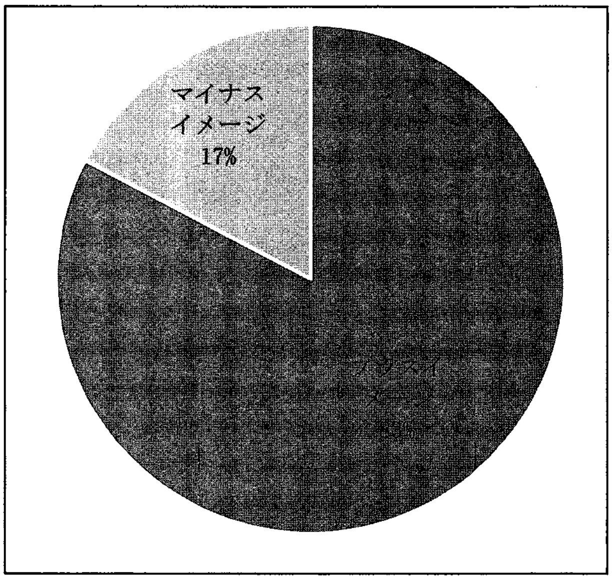

図 2-28（幼）卒園（修了）時の幼児に対するイメージ

＊具体的記述内容については P.56　資料３参照

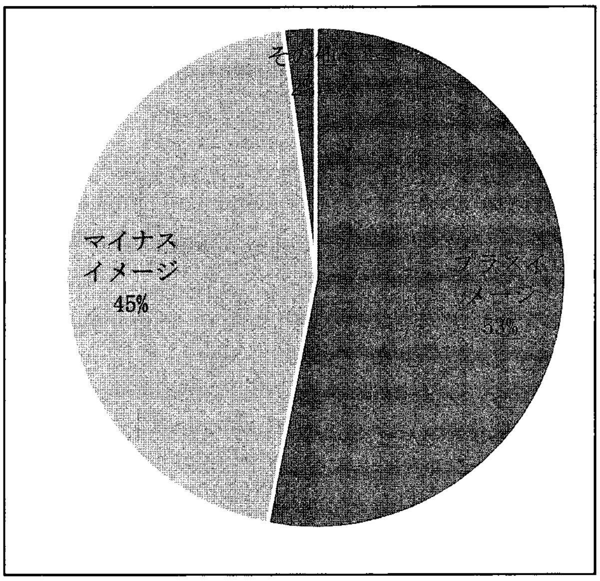

図 2-29（小）新一年生に対するイメージ

＊具体的記述内容については P.57　資料４参照

幼保等教職員に向けた卒園時の幼児に対するイメージ（図 2-28）では，プラスイメージが８３％，マイナスイメージが１７％であった。

小学校教職員に向けた新１年生に対するイメージ（図 2-29）は，プラスイメージが５３％，マイナスイメージが４５％となった。この結果から，小学校は幼保よりもマイナスイメージをもっていることがわかる。プラスイメージで卒園した幼児がマイナスイメージで入学しているところに，幼保等教職員と小学校教職員の見とり方のギャップがあるのではないかと考えられる。

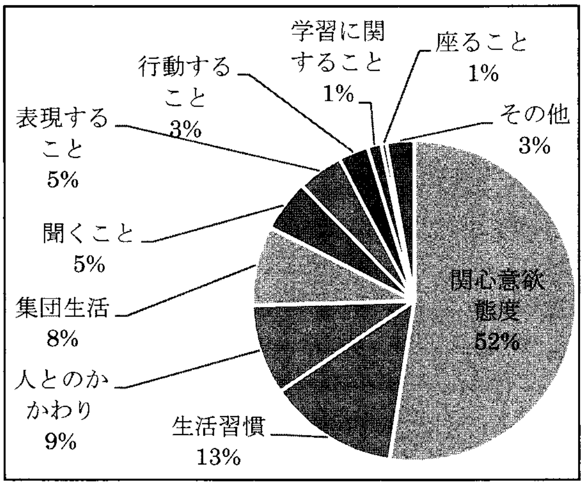

図 2-30（幼）プラスイメージの内訳

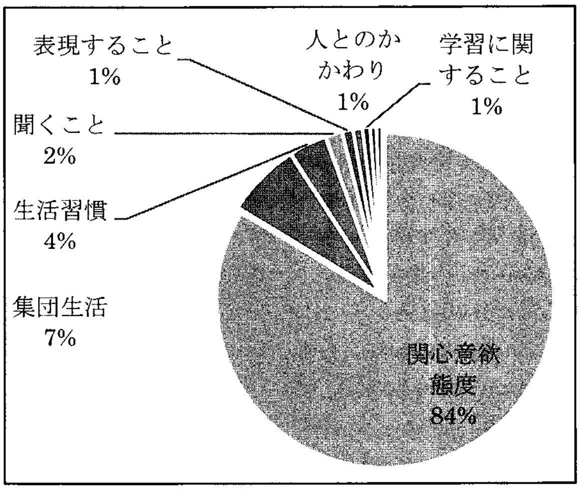

図 2-31（小）プラスイメージの内訳

幼保プラスイメージの内訳（図 2-30）は，「関心意欲態度」が５２％となり，幼児の小学校への期待感を表している。また，「生活習慣」が１３％，「人とのかかわり」が９％，「集団生活」が８％と続き，幼児期につけた力を意識している。

小学校プラスイメージの内訳（図 2-31）は「関心意欲態度」が８４％と最も多く，期待感や意欲，やる気を感じている回答が多い。しかし，幼保と比較すると「関心意欲態度」以外の項目が占める割合は少ない。このことから，新１年生は何ができるのか，意欲ややる気等見えやすい姿の他は具体的な姿がとらえにくいことが考えられる。同時に，小学校がプラスと捉えていることは幼保から見るとプラスには見えない（できて当然のこと）と感じられ，子どもの捉えの違いを見ることができる。

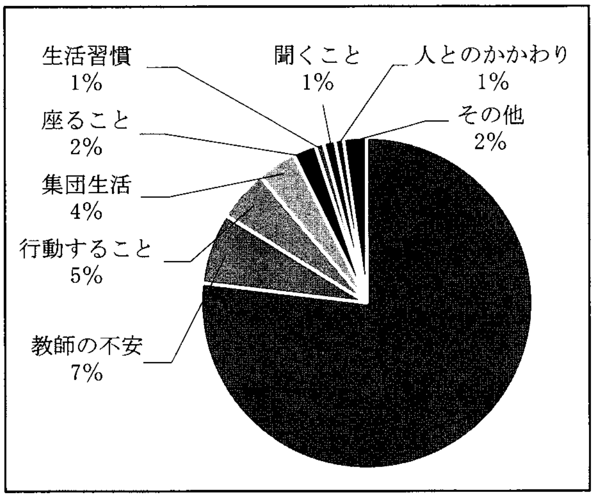

図 2-32（幼）マイナスイメージの内訳

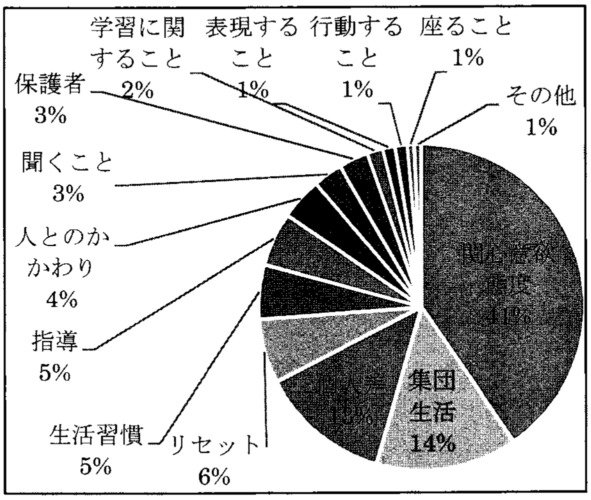

図 2-33（小）マイナスイメージの内訳

幼保のマイナスイメージの内訳（図 2-32）は「関心意欲態度」７７％，「教師の不安」７％であり，マイナスイメージのほとんどは幼児の緊張や不安，教師自身の不安と捉えることができる。

小学校のマイナスイメージの内訳（図 2-33）で最も多いのは「関心意欲態度」４１％であり，緊張や不安，自己調整力がない，幼いなどの回答があった。次いで「集団生活」１４％，「個人差」１３％となっており，この結果から，小学校の教職員は，小学校の集団生活で求められる姿に幼児が至っていないと感じることもあることが読み取れる。「集団生活」の項目についてみてみると，規律やルールについての回答もあるが，入学後に最年長児から一番の年下児として扱われることについての回答も多い。教師が子どもをどのように捉えるか，例えば，「新しい環境だから」支援するのか，「何もできないから」支援するのか，子どもの見方で変わってくるところである。

幼 3-(7-1)：貴園の年長児の進学先で小１プロブレムが生じていると聞いたことはありますか。
小 3-(7-1)：ご自身の学校で小１プロブレムが生じていると感じることはありますか。

幼ではおよそ２割が小１プロブレムが生じていると聞いており，
小ではおよそ４割で小１プロブレムが生じていると感じている

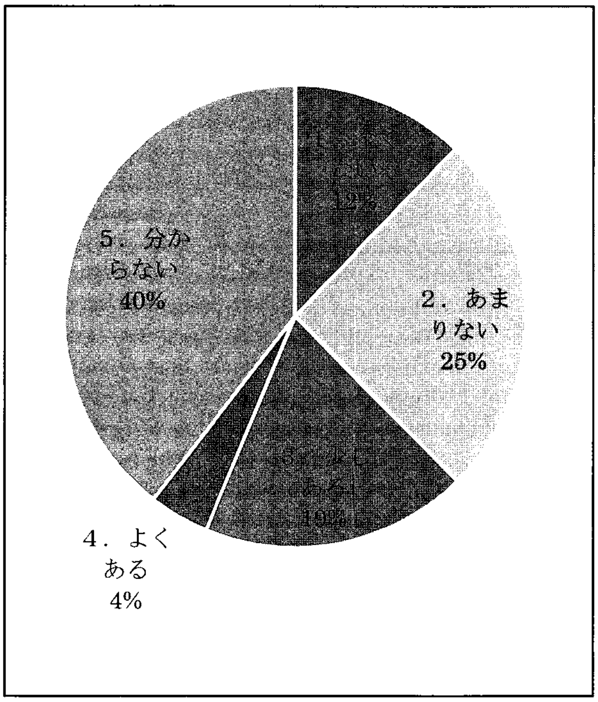

図 2-34 （幼）貴園の年長児の進学先で，小１プロブレムが生じていると聞いたことがありますか

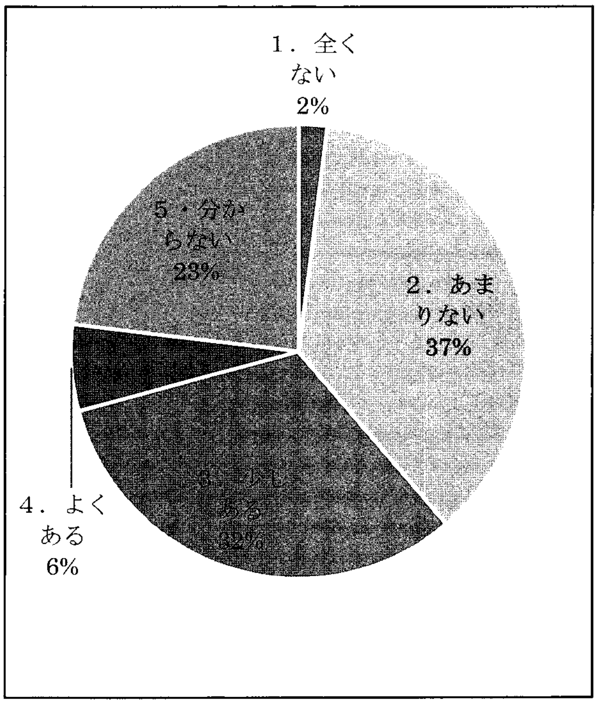

図 2-35 （小）ご自身の小学校で，小１プロブレムが生じていると感じることがありますか

幼保等教職員に向けた，**貴園の年長児の進学先で，小１プロブレムが生じていると聞いたことがありますか**(図 2-34)では，「３．少しある」が１９％，「４．とてもある」が４％であり，およそ２割の保育者が進学先の小学校で小１プロブレムが少なくともあることを認識している。また、「５．わからない」が４０％であった。これは，年長児が進学後は小学校とのかかわりが途絶えてしまうためや，その後の状況を知ることができないため，また小１プロブレムについての具体的な認識がなく，聞いたことが小１プロブレムに当たるか分からない教職員もいるためであると考える。

小学校教職員に向けた，**ご自身の小学校で，小１プロブレムが生じていると感じていることがありますか**（図 2-35）では，「１．全くない」が２％，「２．あまりない」３７％であった。「３．少しある」が３２％，「４．よくある」が６％と，およそ４割の小学校教職員が小１プロブレムが生じていると考えていることが分かる。また，およそ２割が「５．わからない」と回答した。これは第１学年とかかわることが少ない中・高学年の担任の回答，および他学年の状況まで把握することが難しい学校現場の状況が表れているためであると考える。

幼 3-(7-2)　(7-1)で３．少しある　４．よくある　と答えた方にお聞きします。
具体的にどのようなことがありましたか。お書きください。

小 3-(7-2)　(7-1)で３．少しある　４．よくある　と答えた方にお聞きします。
ご自身の小学校では，具体的にどのようなことがありますか。お書きください。

幼保は小１プロブレムとして，椅子に座ったり話を聞いたりする授業態度のことを考えており，小は小１プロブレムとして，幼小の違いがあると考えている

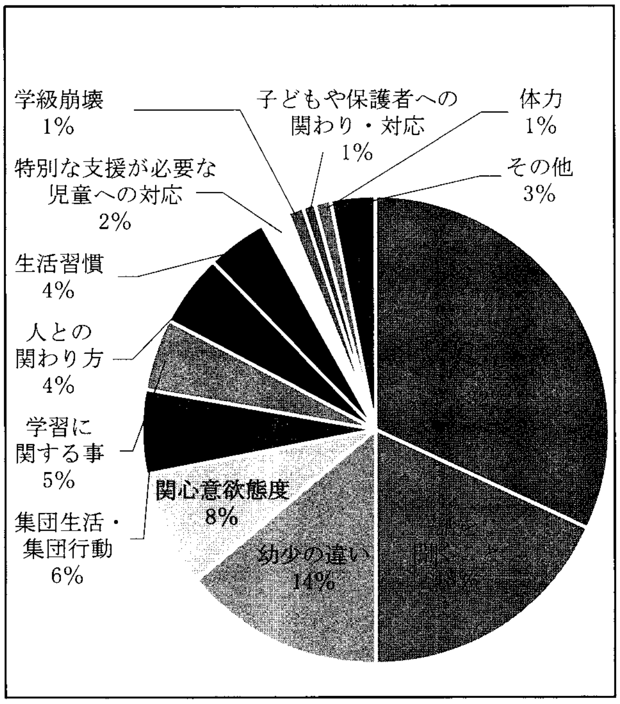

図 2-36　(幼) 貴園の年長児の進学先で，小１プロブレムが生じていると聞いたことがあるか。その具体例

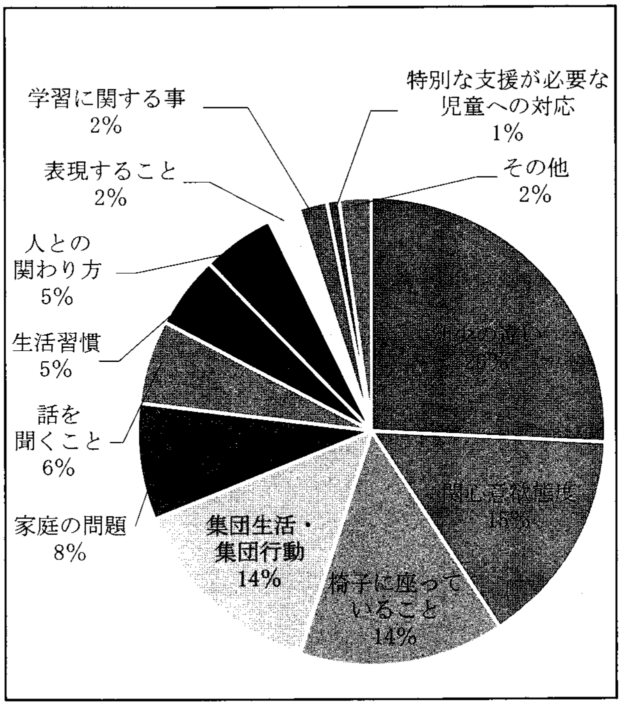

図 2-37　(小) ご自身の小学校で，小１プロブレムが生じていると感じることがあるか。その具体例

※具体的記述内容については P.58 資料５参照

※具体的記述内容については P.59 資料６参照

貴園の年長児の進学先で，小１プロブレムが生じていると聞いたことがあるか（図 2-36）に対しての具体的回答は，「椅子に座っていること」が３２％と最も多かった。**ご自身の小学校で，小１プロブレムが生じていると感じることがあるか（図 2-37）**の具体的回答は「幼小の違い」が２６％と最も多く，幼保等教職員は小学校教職員から小１プロブレムについて伝え聞いた内容が書かれているにもかかわらず，その結果に違いが見られた。「椅子に座っていること」は幼稚園等教職員回答では３２％だが，小学校教員回答で１４％であり，「幼小の違い」は幼稚園等教職員回答では１４％だが小学校教員回答では２６％，といったような差が見られている。また，幼保では「話を聞くこと」が１８％，小では６％となっており，具体的な幼児の姿として，椅子に座っていられなかったり話を聞くことができなかったりといったように，授業に取り組むことが難しい幼児の姿が多いことが予想される。「集団生活・集団行動」の項目は幼保で６％，小で１５％となっており，集団指導の難しさを小学校教諭が感じていることも伺える。

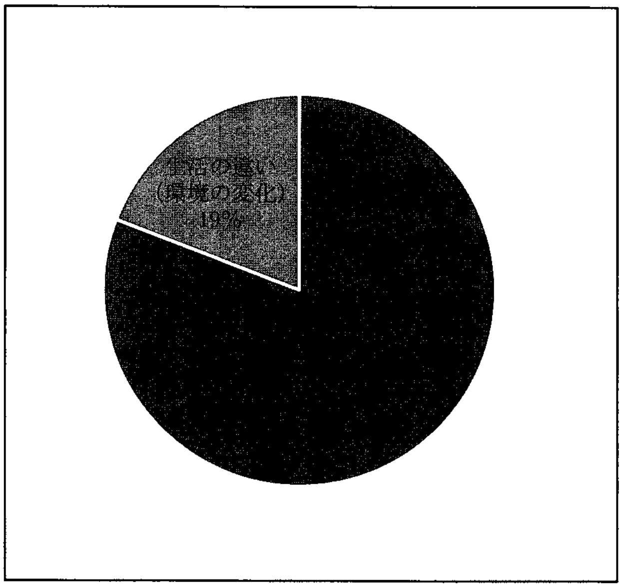

図 2-38　（幼）幼小の違い　内訳

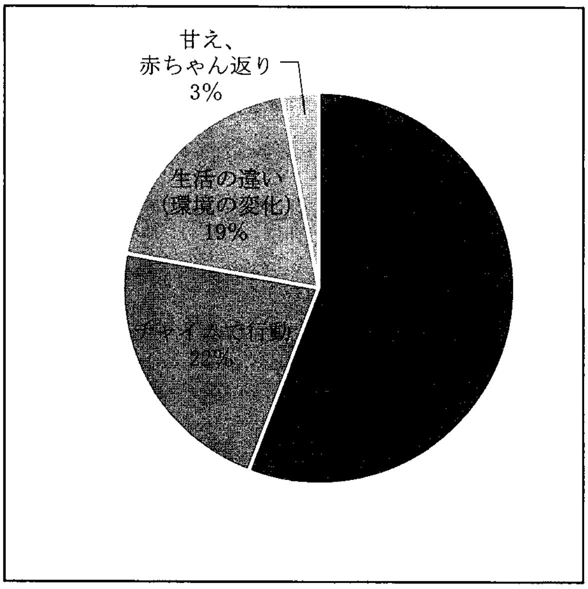

図 2-39　（小）幼小の違い　内訳

幼小の違いの内訳を見ると，どちらも「登校」が８１％と５６％と最も多かった。幼保は保護者の送迎や送迎バスなど，登園時は Door to door であることが多く，親の手を借りずに登園することも，歩いて登園することも無い幼児が多い。そのような状況から急に自分の力で登下校することは難しく，そこに困難が生じていることが考えられる。また，小の方には「チャイムで行動」「甘え，赤ちゃん返り」に該当する回答が挙がっていた。環境の変化に対応できない子どもの様子が伺える。

幼 3-(7-3)：3-(7-1)で「3．少しある」「4．よくある」と答えた方にお聞きします。
小1プロブレムが生じた主な理由は，以下のどれだと考えますか。
小 3-(7-3)：3-(7-1)で「3．少しある」「4．よくある」と答えた方にお聞きします。
小1プロブレムが生じる主な理由は，以下のどれだと考えますか。

幼小ともに家庭や地域の問題を小1プロブレムの主な原因と捉えている

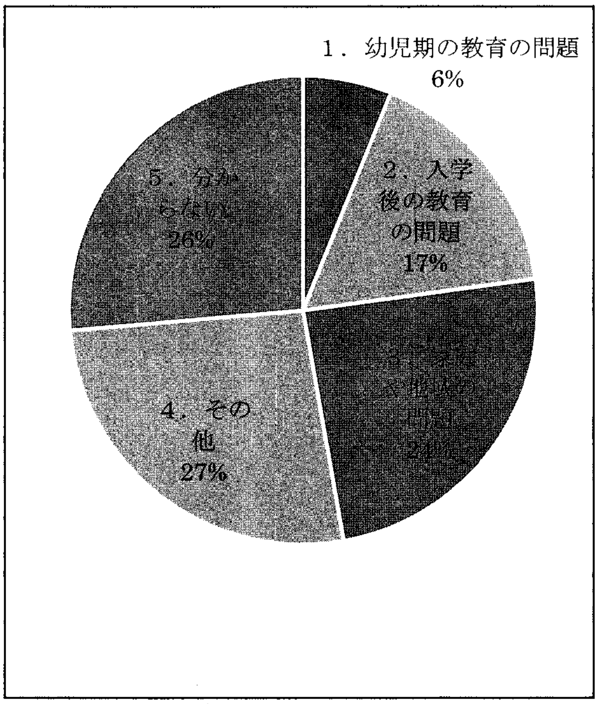

図 2-40 (幼)小1プロブレムの原因は以下のどれだと考えますか

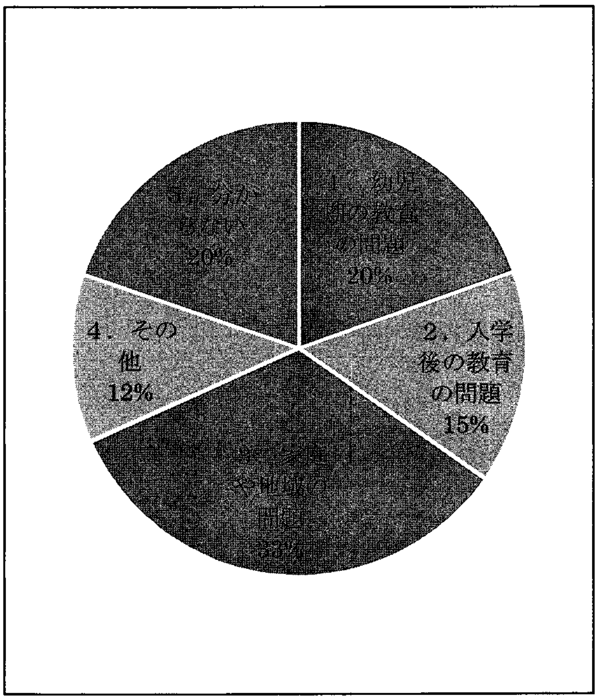

図 2-41 (小)小1プロブレムの原因は以下のどれだと考えますか

幼保等教職員に向けた，**小1プロブレムの原因は以下のどれだと考えますか**（図 2-40）では,「3．家庭や地域の問題」が２４％と最も多く，次いで「2．入学後の教育の問題」が１７％,「1．幼児期の教育の問題」が６％となっている。幼保等教職員は主に「3．家庭や地域の問題」を小1プロブレムの原因と捉えていることが分かる。

小学校教職員に向けた，**小1プロブレムの原因は以下のどれだと考えますか**（図 2-41）では，幼保と同様に「3．家庭や地域の問題」が 33 パーセントと最も多く，次いで「幼児期の教育の問題」が２０％,「入学後の教育の問題」が１５％となっている。小学校教職員も主に「3．家庭や地域の問題」を小1プロブレムの原因と捉えていることが分かる。

また，幼小共に自らの教育の原因については低い回答率であった。

幼 3-(8-1)：貴園を卒園した新１年生が，学習や生活上，自信をもって取り組めることはありますか。
小 3-(8-1)：これまでにかかわった新１年生で，学習や生活上，感心したことはありますか。

幼の４割の教職員は学習や生活上，自信をもって取り組めることがあると回答し，
小は６割の教職員が学習や生活上感心したことがあると回答している

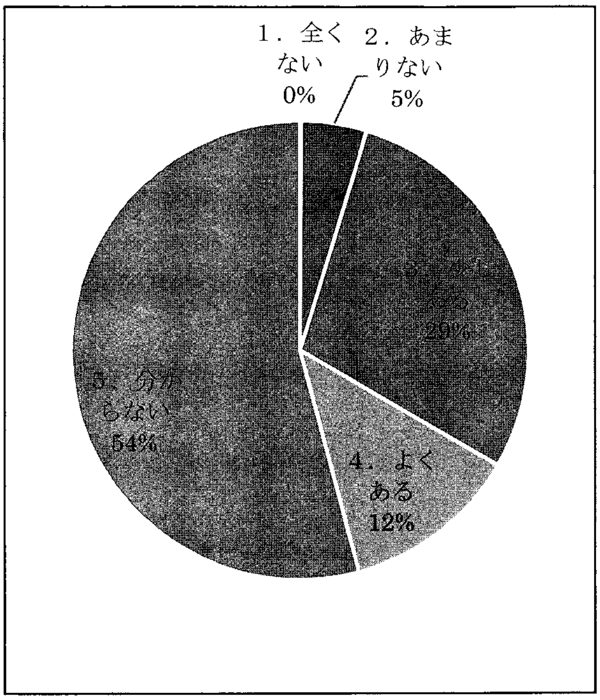

図 2-42　(幼)貴園を卒園した新１年生が，学習や生活上，自信をもって取り組めることはありますか

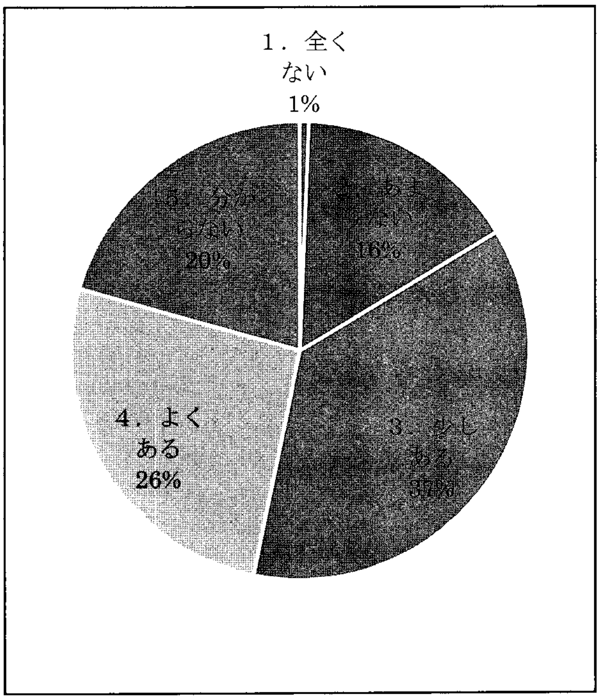

図 2-43　(小)これまでにかかわった新１年生で，学習や生活上，感心したことはありますか

幼保等教職員に，**卒園した新１年生が学習や生活上自信をもって取り組めることはありますか**(図 2-42)では，「４．よくある」が１２％，「３．少しある」が２９％で，およそ４割の保育者が園での生活で培った力を活かし学校生活上でも自信をもって取り組めると捉えている。一方，「５．わからない」が５４％であった。これは，教職員自身が，小学校ではどのような学習や生活が行われているか分からないため，幼保での取り組みが実際に小学校へつながっているかどうか判断することができないためであると考える。

小学校教職員に向けた，**これまでにかかわった１年生で，学習や生活上，感心したことはありますか**（図 2-43）では，「４．よくある」が２６％，「３．少しある」が３７％であり，およそ６割の職員が少なからず学習や生活上感心したことがあることが分かる。「５．分からない」が２０％であるのは，中・高学年担当の教職員が新１年生とのかかわりがほとんどないための結果であると考える。

幼 3-(8-2)：3-(8-1)で「３．少しある」「４．よくある」と答えた方にお聞きします。
具体的にどのようなことがありましたか。お書きください。
小 3-(8-2)：3-(8-1)で「３．少しある」「４．よくある」と答えた方にお聞きします。
具体的にどのようなことがありましたか。お書きください。

幼稚園等では友達に手を貸すことを「協力している」と捉えているが，
小学校では「助けてあげている」と捉えられていることが多い

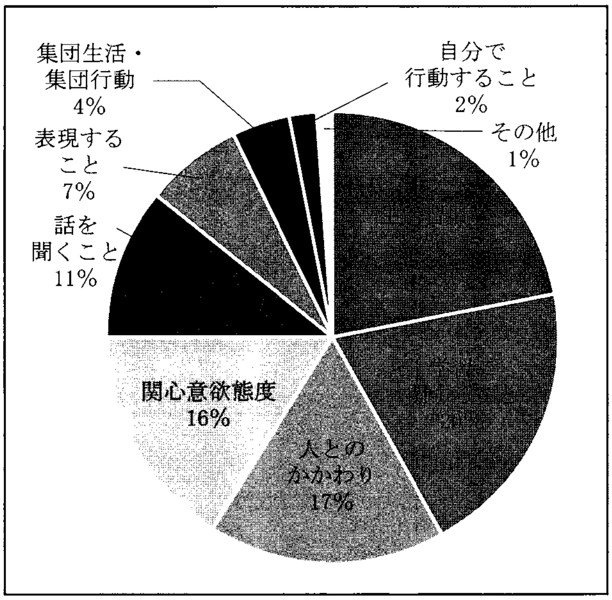

図 2-44（幼）貴園を卒園した新１年生が，学習や生活上，自信をもって取り組めることはありますか。具体例

※具体的記述内容については，P60　資料７参照

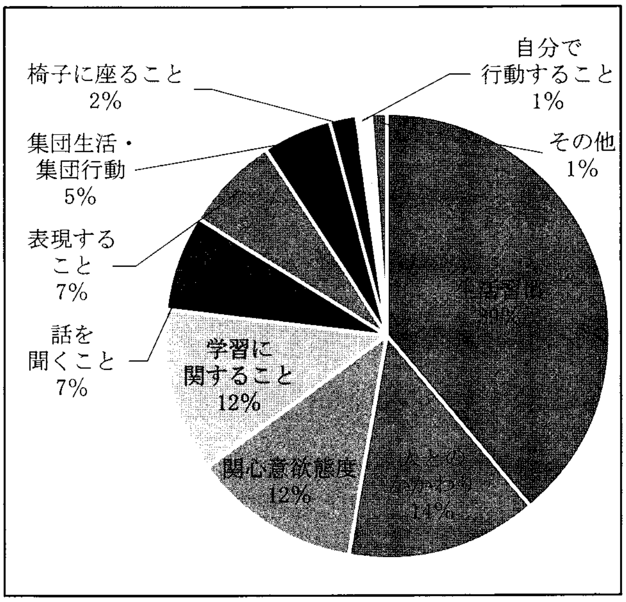

図 2-45（小）新１年生で，学習や生活上，感心したことはありますか。その具体例

※具体的記述内容については，P61　資料８参照

＊生活習慣について
本アンケートにおいて，生活習慣に関する記述が多く見られる。「生活習慣」の中にどんな内容を含むのかは，人それぞれ異なる。そこで，本園では，以下の図（図 2-54，2-55）にある事柄を生活習慣として考え，分類した。また，「生活習慣」「基本的生活習慣」という回答に対して，どんな事柄が含まれるのかは回答者によって様々だと考えられるので，そのまま分類した。

幼保（図 2-44）では，生活習慣に関する回答が２２％，小（図 2-45）でも３９％と最も多かった。また，次いで幼保では「学習に関すること」が２０％，小では「人とのかかわり」が１４％という結果になった。
生活習慣を身に付けることは，幼保で意識されていることがわかり，その結果，小学校生活の中でも感心するような行動につながっていると考えられる。

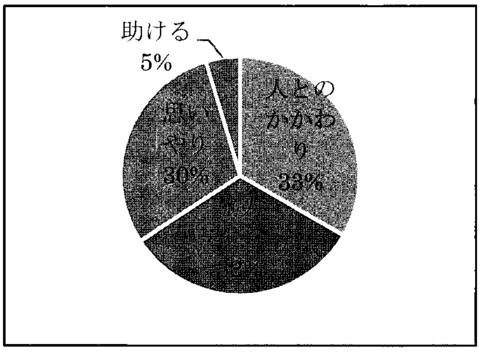

図 2-46（幼）人とのかかわり　内訳

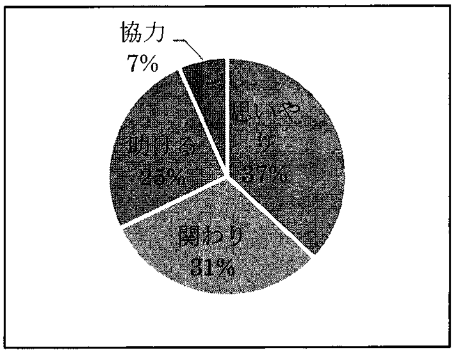

図 2-47（小）　人とのかかわり　内訳

人とのかかわりの内訳（図 2-46,図 2-47）について，「協力する」は幼保で３２％と１番多いのに対して小学校では７％と少ない。一方で「助ける」は幼保で５％と少ないのに対して小学校では２５％と多い。詳細を比べると（補助資料 7），幼保では「友達と協力して」「団結して」という表現が多いが，小学校では「できない子を助ける」「お世話する」という表現が多く見られる。このことから，子ども同士が声をかけあったり，手を貸したりという状況を目にした時に，幼保の職員は協力していると捉え，小学校職員はそれを助けてあげていると捉えているのではないかと考えられる。これは，幼保で協同性を育てようとしていることが小学校に上手く伝わっていないことの表れともとれる。

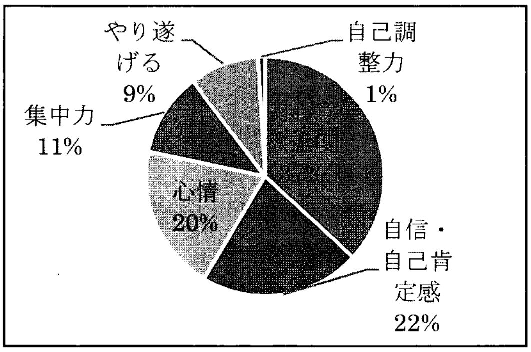

図 2-48（幼）関心意欲態度　内訳

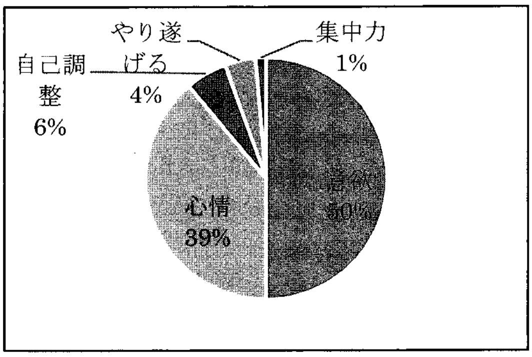

図 2-49（小）関心意欲態度　内訳

関心意欲態度の内訳（図 2-48,図 2-49）について，幼保では「自己肯定感」が２２％であるのに対し，小学校では回答がなかった。詳細を見ると（資料 8）幼保では「自信をもてるようにしている」という記述が見られ，年長児に対して，物事に自信をもって取り組めるようにすることを意識していることがわかる。一方で小学校では，新１年生に対して，助けてあげるべき存在と捉え，物事に自信をもつことを重視していないのではないかと考えられる。何事にも自信をもって取り組めるようにと卒園させている幼保と，受け入れる小学校とでは温度差があることが読み取れる。小学校では高学年と比べたときに，新１年生が幼く見えるのはある程度仕方が無いのかもしれない。しかし，卒園してきた時にもっていた自信を生かした学校生活の送り方を考えるべきではないだろうか。

幼 3-(9-1)：貴園を卒園した新 1 年生が，学習や生活上，困るだろうことはありますか。
小 3-(9-1)：新 1 年生で，学習や生活上，指導に困ることはありますか。

幼では 5 割の教職員が学習や生活上困ることがあるだろうことがあると回答し，
小では 6 割の教職員が学習や生活上，指導に困ることがあると回答している

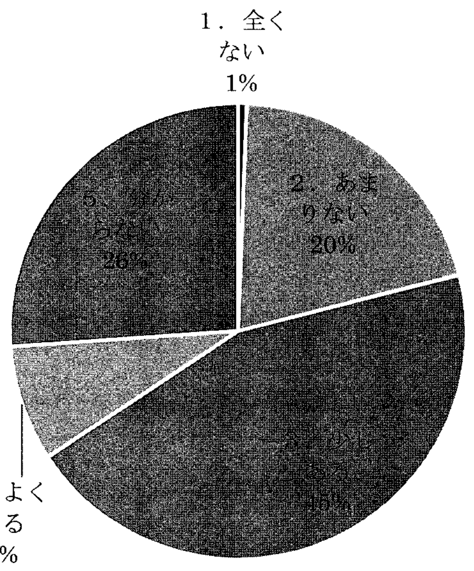

図 2-50　(幼)貴園を卒園した新 1 年生が，学習や生活上，困るだろうことはありますか

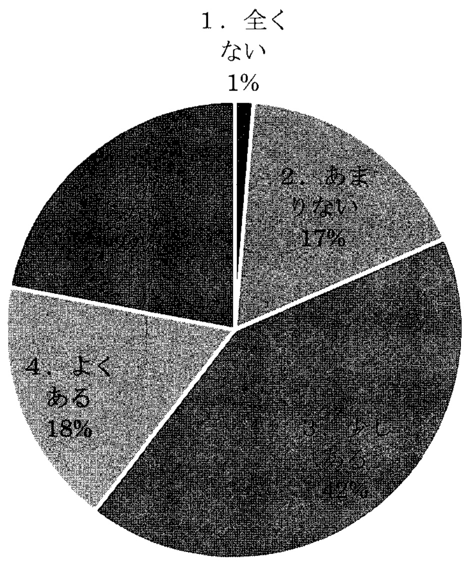

図 2-51　(小)新 1 年生で，学習や生活上，指導に困ることはありますか

幼保等教職員に向けた，**貴園を卒園した新１年生が，学習や生活上困るだろうことはありますか**（図 2-50）では，「1．全くない」が１％，「2．あまりない」が２０％とおよそ２割の教職員が困らないだろうと回答している。一方，「4．よくある」が８％，「3．少しある」が４５％とおよそ５割が就学後に学習や生活で困ることがあるだろうと回答している。「5．わからない」が２６％であるが，これは小学校での具体的な学習や生活の姿が分からないため，新１年生が困るかどうか分からないためだと考える。

小学校教職員に向けた，**新１年生で，学習や生活上，指導に困ることはありますか**(図 2-51) では，「1．全くない」が１％，「2．あまりない」が１７％とおよそ２割を占めていた。一方で「4．よくある」が１８％，「3．少しある」が４２％と６割の教職員が指導に困ることがあると回答した。「5．分からない」が２２％であるが，これは１年生を担任したりかかわったりした経験のない教職員が回答し，実際に指導に困る経験がないためだと考えられる。

幼 3-(9-2)： 3-(9-1)で 3. 少しある　4．よくあると答えた方にお聞きします。
具体的にどのようなことがありますか。お書きください。
小 3-(9-2)： 3-(9-1)で 3. 少しある　4．よくあると答えた方にお聞きします。
具体的にどのようなことがありますか。お書きください。

幼小では，小１の指導に対して困ると思う項目はほとんど変わらないが，割合が異なっている

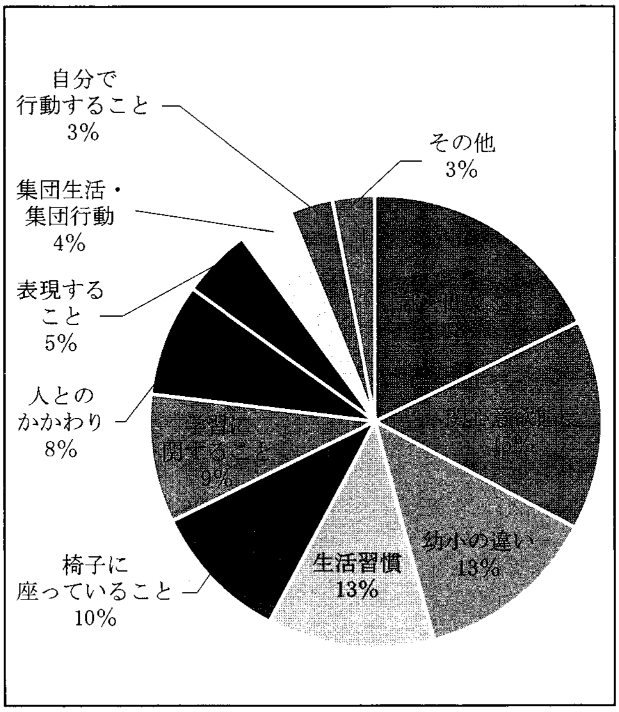

図 2-52（幼）貴園を卒園した新１年生が，学習や生活上，困るだろうと思うことはありますか。具体例

＊具体的記述内容については，P62 資料 9 を参照

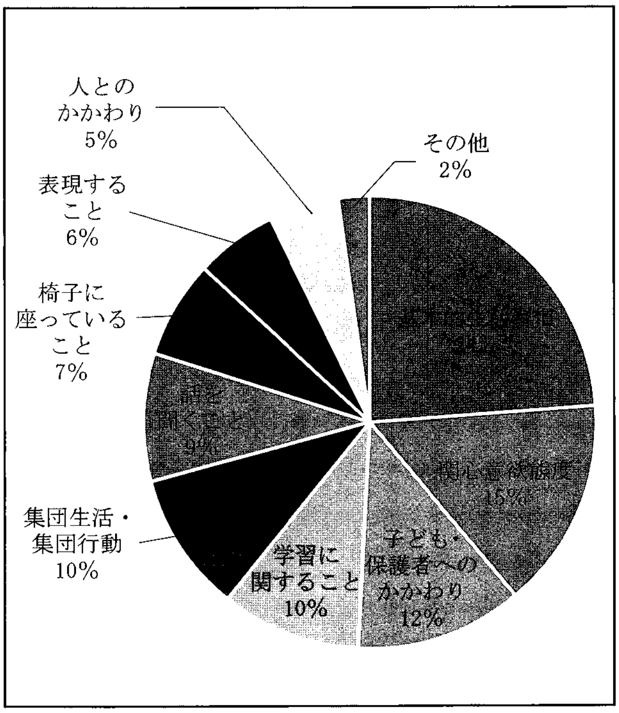

図 2-53（小）新１年生で，学習や指導に困ることはありますか。具体例

＊具体的記述内容については，P63 資料 10 を参照

幼保等教職員に向けた，**具体的にどのようなことがありますか。お書きください。**(図 2-52) では，「話を聞くこと」１８％，「関心意欲態度」１５％，「幼小の違い」１３％，「生活習慣」１２％，「椅子に座っていること」１０％と続く。

小学校教職員に向けた，**具体的にどのようなことがありますか。お書きください。**(図 2-53) では，「生活習慣」２４％，「関心意欲態度」１５％，「子ども保護者へのかかわり」１２％，「学習に関すること」１０％，「集団生活・集団行動」１０％となっている。

幼保と小学校では指導に困ると思う項目はほとんど変わらないものの，割合が異なっていることがわかる。特に「生活習慣」，「集団生活・行動」，「話を聞くこと」では，割合に大きな違いが見られた。また，それぞれの教職員独自の項目として，幼保では「幼小の違い」，少数意見ではあるが「自分で行動すること」があげられた。小学校では「子ども・保護者へのかかわり」があげられた。このように幼小で割合が異なるのは，幼小の施設等の環境の違い，生活スタイルの違い，教職員の子どもの見取りの違いが大きいと考える。

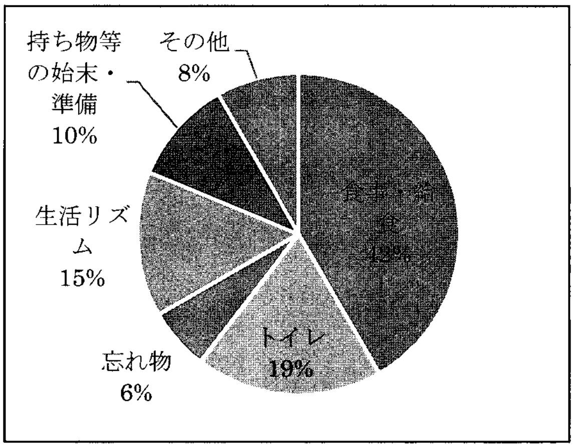

図 2-54（幼）生活習慣　具体例

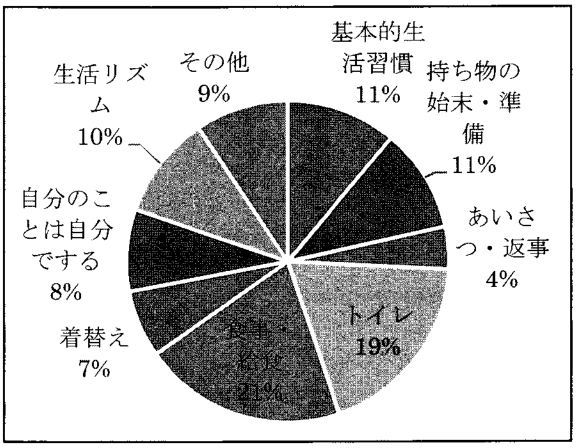

図 2-55（小）生活習慣　具体例

「生活習慣」（図 2-54,図 2-55）の内訳を見ていくと，小学校は満遍なく項目があげられているが，幼保では，「食事・給食」が４２％と最も多く，次いで「トイレ」１９％となっている。幼保等教職員は小学校の時間割で区切られた時間の中で，給食を食べきることができるか，和式トイレが多い小学校のトイレを使用することができるのか等，ここでも幼保等と小学校の生活スタイル，施設の変化に対する不安があることがわかる。小学校でも，子ども達のこれまでの経験に応じて配慮することが必要だと考える。

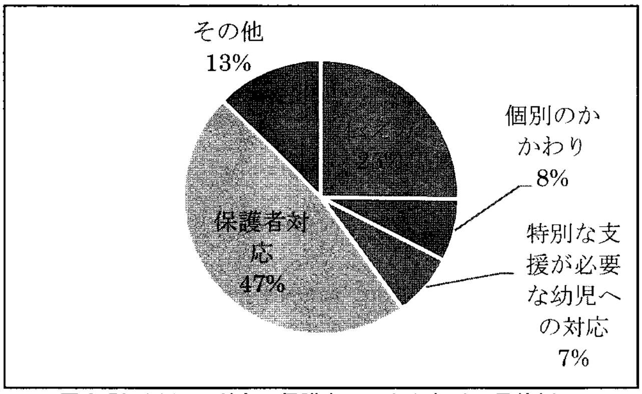

図 2-56（小）子ども・保護者へのかかわり　具体例

図 2-56「子ども・保護者へのかかわり」の内訳を見ていくと，「保護者対応」４７％と最も多く，小学校教職員が困っていることがわかる。このことから，幼保では保護者のニーズに応えることだけではなく，集団教育の場での保護者の姿勢等を伝えていくことが大切だと考える。

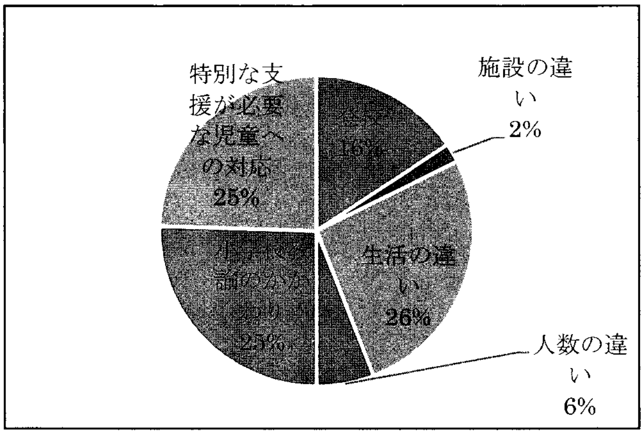

図 2-57（幼）幼小の違い 具体例

図 2-57「幼小の違い」の内訳をみると，「特別な支援が必要な児童への対応」２５％，「小学校教諭のかかわり」２５％と多く，小学校教職員のかかわりを不安に思っていることがわかる。Ｐ６２資料９から詳しく見ると，もっと子ども一人一人に対応してほしいと願っている幼保等教職員の思いがわかる。

幼 3-(10-1)：貴園において，就学までに幼児が身につけられるように意識していることはありますか。
小 3-(10-1)：新１年生に，就学時までに身につけておいてほしいことがありますか。

幼のおよそ９割が就学までに幼児が身につけられるように意識していることがあり，
小のおよそ８割以上が就学時までに身につけてほしいことがあると回答している

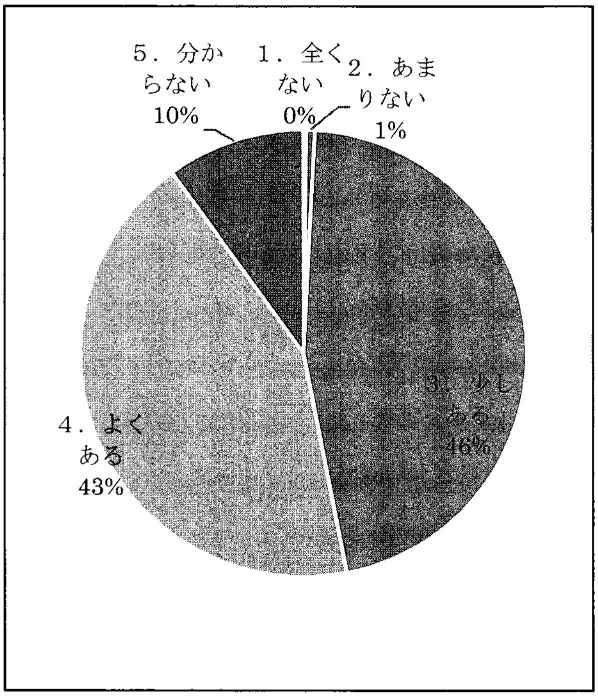

図 2-58 （幼）貴園において，就学までに幼児が身につけられるように意識していることはありますか

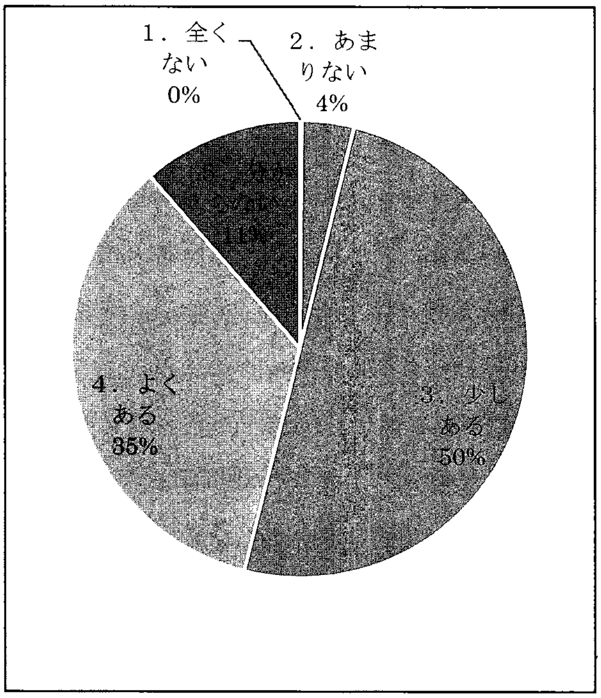

図 2-59 （小）新１年生に，就学時までに身につけておいてほしいことはありますか

幼保等教職員に向けた，**貴園において，就学までに幼児が身につけられるように意識していることはありますか**（図 2-58)では，「４．よくある」が４３％，「３．少しある」が４６％で，およそ９割の教職員が小学校へ向けて幼児が身につけられるように意識して保育をしていることが分かる。

小学校教職員に向けた，**新１年生に，就学までに身につけておいてほしいことはありますか**（図 2-59）では，「４．よくある」が３５％，「３．少しある」が５０％であり，８割以上の教職員が就学までに身につけてほしいことがあると分かる。

幼小ともに，就学までに身につけるべきことがあると感じていることが分かる。

幼　3-(10-2)：3-(10-1)で「３．少しある」「４．とてもある」と答えた方にお聞きします。
具体的にどのようなことがありますか。お書きください。
小　3-(10-2)：3-(10-1)で「３．少しある」「４．とてもある」と答えた方にお聞きします。
具体的にどのようなことがありますか。お書きください。

幼保は就学までに主に生活習慣を身につけられるよう意識しており，
小は幼保よりも，より生活習慣を身につけておいてほしいと考えている

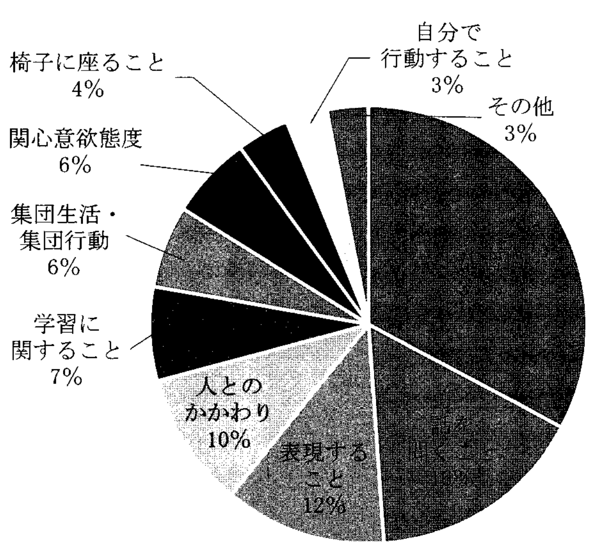

図 2-60（幼）就学までに幼児が身につけられるように意識していることの具体例

※記述内容にての具体例は P64　資料 11 参照

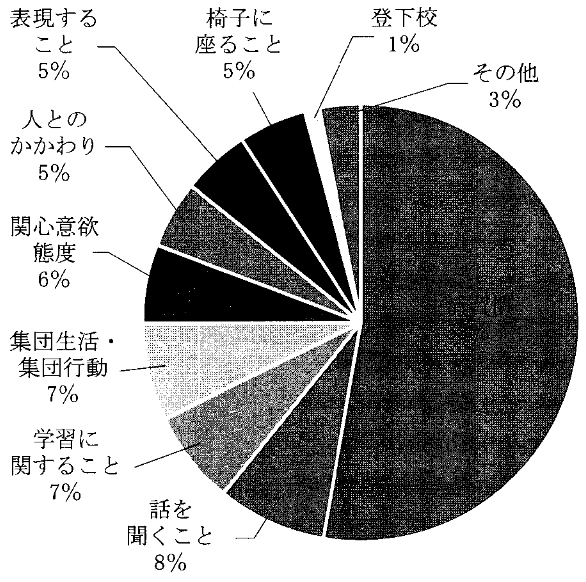

図 2-61（小）新１年生に，就学時までに身につけておいてほしいことの具体例

※記述内容にての具体例は P65　資料 12 参照

図 2-60 及び図 2-61 の自由回答の結果は，幼保等教職員の回答では「生活習慣」が３３％，小学校教職員の回答でも「生活習慣」が５５％と最も多く，次いで「話を聞くこと」がそれぞれ１６％と８％という結果となった。小学校教職員の回答で生活習慣が半数以上となったのは，様々な幼稚園，保育所などから入学する為，身につけている生活習慣に差があることで，指導のしにくさを感じているのではないかと考えられる。着替えや準備に時間がかかると授業をスムーズに進めることができないと考える小学校教諭も多いのではないだろうか。そこには，幼保等教職員と小学校教職員の“できる”と捉える基準の違い，そして保障できる時間の違いがあると考えられる。小学校では幼保より短い時間で準備等を行わねばならず，教師の手助けも難しいのではないだろうか。

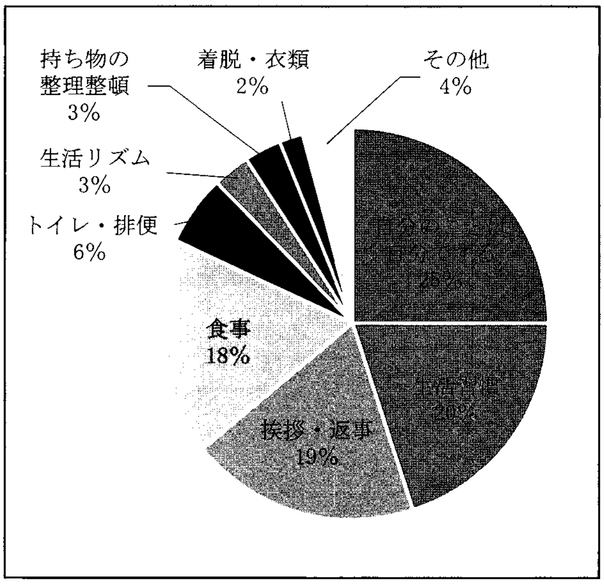

図 2-62　(幼) 生活習慣　内訳

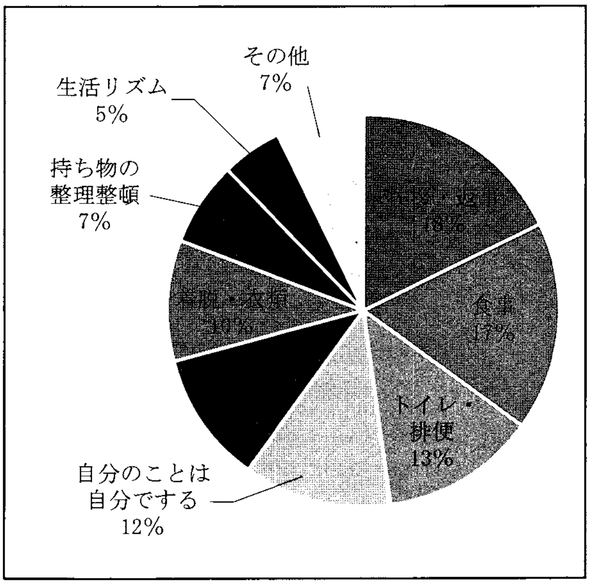

図 2-63　(小) 生活習慣　内訳

「生活習慣」に該当する回答内容の内訳を見ると (図 2-62 及び図 2-63), 幼保では「自分のことは自分でする」が２５％と最も多く, 小では１２％と差が見られる (この「自分のことは自分でする」は図 2-60 の「自分で行動する」とは異なり, 身辺の整理を指す)。「食事」「挨拶・返事」の割合はほぼ同じである。小では比較的どの項目も満遍なく挙げられているが, 幼保との違いは「着脱」「トイレ・排便」の割合が増えていることである。

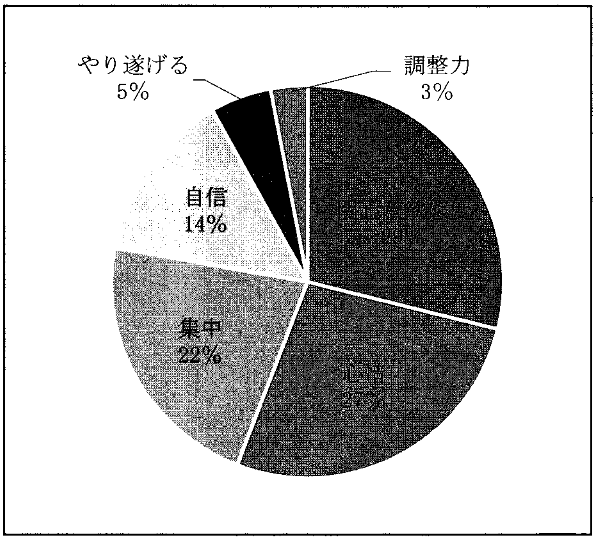

図 2-64　(幼) 関心・意欲・態度　　内訳

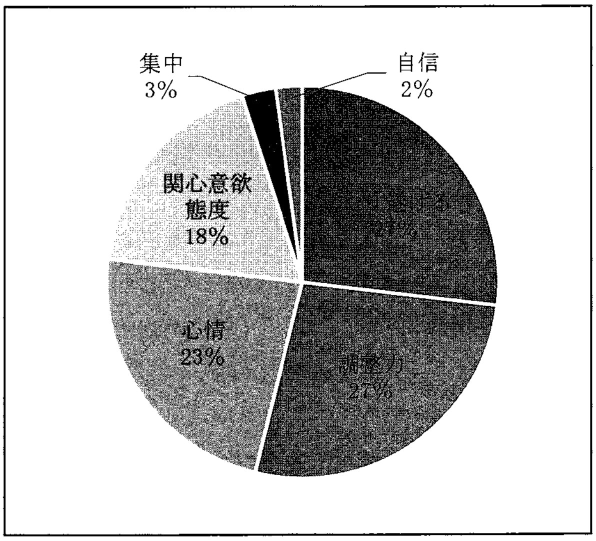

図 2-65　(小) 関心・意欲・態度　　内訳

「関心・意欲・態度」の割合は全体だと幼保, 小ともに６％と少ないのだが, その回答内容の内訳を見ると, 幼保では「関心・意欲・態度」が２９％と最も多く,「心情」「集中」も同程度の割合を占める (図 2-64)。小では「やり遂げる」が２７％と最も多く,「調整力」と「心情」も同程度の割合である (図 2-65)。小の方に「やり遂げる」が多い理由だが, 幼稚園は一人一人の意欲を大切にしながら, 個々の育ちを評価している。それに対して, 小でははっきりとした到達目標があり, 小の方がより到達目標に対して最後までやり遂げることを大切にしている為と考えられる。

幼 3-(11)：小学校は，幼児期の教育で培った力を活かして，学習活動あるいは学校生活を組み立てていると思いますか。

小 3-(11)：幼児期の教育で培った力を活かして，学習活動あるいは学校生活を組み立てていますか。

幼は５割の教職員が小学校では幼児期に培った力を活かしていると回答し，小もおよそ５割が幼児期に培った力を活かして学校生活を組み立てている

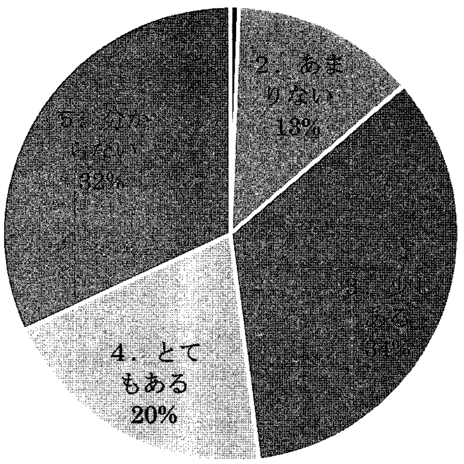

図 2-66 (幼)小学校は，幼児期の教育で培った力を活かして，学習活動あるいは学校生活を組み立てていると思いますか

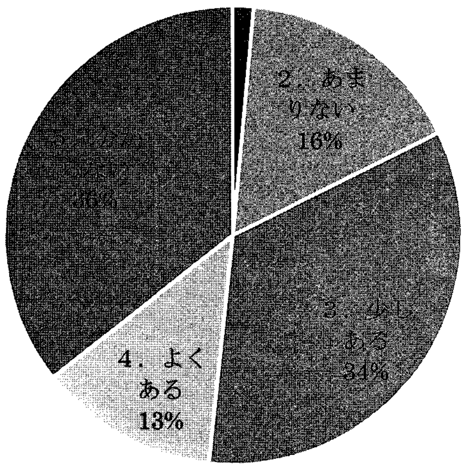

図 2-67 (小)幼児期の教育で培った力を活かして，学習活動あるいは学校生活を組み立てていますか

幼保等教職員に向けた，**小学校は幼児期の教育で培った力を活かして，学習活動あるいは学校生活を組み立てていると思いますか**（図 2-66)では，「1．全くない」が１%，「2．あまりない」が１３%であった。一方「4．よくある」が２０%，「3．少しある」が３４%で，およそ５割の教職員が小学校は幼児期に培った力を活かしていると思っている。「5．分からない」が３２%であった。これは，教職員が小学校での学習活動や生活を直接知る機会がほとんどないため，培った力が活かされているかどうか分からない結果と言える。

小学校教職員に向けた，**幼児期の教育で培った力を活かして，学習活動，学校生活を組み立てていますか**（図 2-67）では，「1．全くない」が１%，「2．あまりない」が１６%であった。「4．よくある」が１３%，「3．少しある」が３４%であり，幼児期に培った力を活かしている教職員はおよそ５割にとどまっている。また「5．分からない」が３６%であった。これは，小学校の教職員が幼児期にどのような力を培ってきているのか分からないこと，また第１学年とかかわることが少ない教職員の回答であると考えられる。

幼 3-(12)：小学校では，入学時に子どもの実態に合わせた授業形態，カリキュラム編成を行っていると思いますか。

小 3-(12)：ご自身の小学校では，入学時に，子どもの実態に合わせた授業形態，カリキュラム編成を行っていますか。

小の半数は幼児の実態に合わせた授業形態やカリキュラム編成をしているが，幼の半数はその実態について知る機会がない

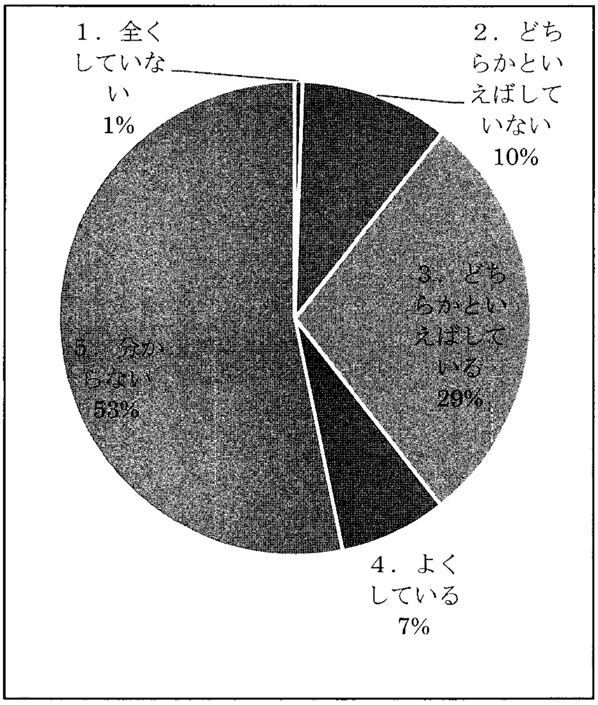

図 2-68 (幼) 小学校では，入学時に子どもの実態に合わせた授業形態，カリキュラム編成を行っていると思いますか

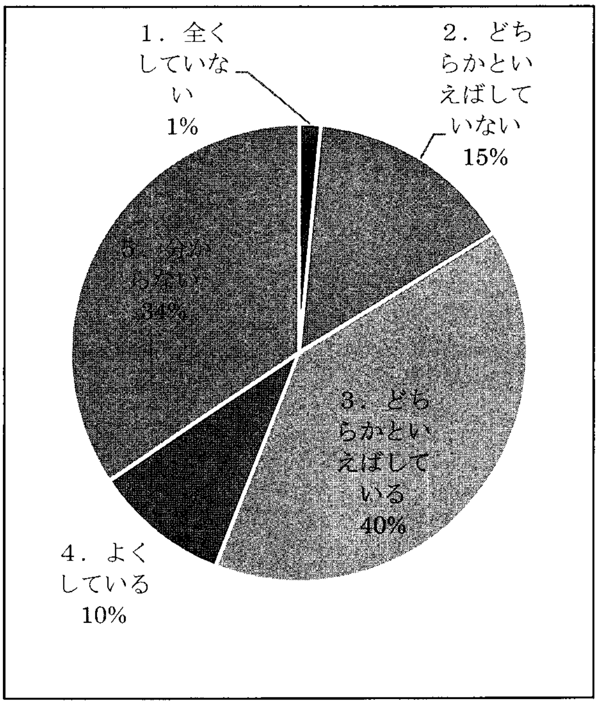

図 2-69 (小) ご自身の小学校では，入学時に，子どもの実態に合わせた授業形態，カリキュラム編成を行っていますか

幼保等教職員に向けた，**小学校では，入学時に子どもの実態に合わせた授業形態，カリキュラム編成を行っていると思いますか**（図 2-68)では，「4．よくしている」が７%，「3．どちらかといえばしている」が２９%で，４割に満たない。一方「5．分からない」が５３%と多く，幼児の進学先の小学校が多岐にわたっているので，カリキュラムがあるかどうか把握できないことや小学校での授業形態や実際のカリキュラム自体を知ることのない保育者が多い実態が分かる。

小学校教職員に向けた，**ご自身の小学校では，入学時に，子どもの実態に合わせた授業形態，カリキュラム編成を行っていますか**（図 2-69）では，「4．よくしている」が１０%，「3．どちらかといえばしている」が４０%と，５割の学校で，子どもの実態に合わせて学校生活を組み立てていることが分かる。しかし，「5．分からない」が３４%と高く，自身の学校が新１年生の実態に合わせた授業形態やカリキュラム編成を行っているか把握できていない職員の存在も浮き彫りとなった。